

令和 2 年度

社会福祉法人伯和会  
事業計画書

## I 基本的事項

### 《基本理念》

法人の信条である「奉仕・博愛・寛容」に基づく介護サービスを信条にし、全職員と全利用者の物心両面の幸福を追求し社会福祉の発展を目指します。

施設サービス計画を作成し、いままでの生活習慣や個人の意思を大切に自己決定、自己選択、残存能力の活用を図り入居者本人が自立した質の高い生活が送れるよう支援に努めていきます。

## II 経営組織のガバナンスの強化

- 1 理事会⇒全ての業務執行の決定や理事の職務執行の監督を行う。
- 2 評議員会⇒法人運営の基本ルール・体制の決定と事後的な監督を行う。
- 3 監事⇒法人の業務監督及び財務諸表の一層の適正化と透明性の強化を図る。

## III 事業運営の透明性の向上

- 1 財務諸表・現況報告書等の公表  
→財務諸表・現況報告書等の設置、閲覧や公表を適切に行い、法人運営の透明性の確保を図る。(ホームページにて一般者向けに掲載)
- 2 役員報酬基準の作成と公表  
→新たに設立した役員本部の事業運営の明確化と役員報酬基準を定め公表する。

## IV 財務規律の強化

- 1 社会福祉充実残額の明確化  
→会計年度ごとに控除対象財産、社会福祉充実残額を明確化する。
- 2 社会福祉充実計画の作成と実施  
→社会福祉充実残額が発生した場合は、法人が策定する社会福祉充実計画を作成し確実な実施を図る。

## V 地域公益活動の実施

- 1 地域公益活動の検討と具体化  
→地域の独居高齢者、障害者、経済的に困窮する者等を支援する、福祉ニーズに対応するサービスを構築するよう計画。

## VI 事業収入の安定的確保

- 1 稼働率の向上や各種加算の確保などにより事業収入の安定を図る。
- 2 財務管理の強化と経費削減  
→予算管理の徹底や財務管理体制の強化を図るとともに、経費節減に努める。

## VII 良質な福祉サービスの提供

- 1 利用者の人権人格の尊重  
→日常的な接遇点検や、内外研修に積極的に参加を促し、個々の人権意識を高めるべく計画。

## VIII 人材確保と育成

- 1 各委員会の活動を通してサービスの質の向上の為の取り組みを推進する。
- 2 利用者、職員にとって、より安全で安楽な介護を目指す。
- 3 利用者の自立支援促進や、職員の健康管理のため福祉・介護機器の導入を検討する。
- 4 サービス評価の実施  
→CSの定期的実施や第三者評価の受審を通してサービスの点検と改善を図る。

## IX 組織の活性化

- 1 職員の労働環境の整備  
→職員の処遇改善や職場環境の整備に努め、職員がいきいきと働く事を目指す。
- 2 人事考課制度の導入とキャリアパスの構築  
→人事考課制度の定着や適切な運用を通して、個々のレベルアップと組織の活性化を図る。
- 3 職員の満足度調査等の実施  
→ストレスチェック等を実施し、ワークライフバランスの乱れや体調不良の継続などでの離職を防止する。
- 4 ICTの積極的活用  
→利用者支援の充実や業務効率化推進のため、ICTを積極的に活用する。

## X 危機管理の強化

- 1 コンプライアンス体制の強化  
→内部牽引体制の強化や情報管理の徹底、各種法令や基準を遵守し、法人としての信頼性を向上させる。
- 2 危機管理の強化  
→リスクマネジメント教育を強化し、安全、安心な体制を構築する。  
防災対策の定期的見直しと訓練の実施。

## XI 居宅支援センター開始について

昨年度休業いたしました居宅支援事業の再開を計画しました。

昨年度当初予算から赤字計上する居宅支援事業をいったん休業し全くタッチせずに他の事業を展開してまいりましたが、同一法人のケアハウス入居者をデイサービスセンター茶園やえんじゅショートステイを利用して頂けるように居宅介護事業を活用できればと思料いたします。

## 重点目標

- 1 : ともに支えあう地域社会づくりの推進
- 2 : エリア単位の地域福祉活動の推進
- 3 : 居宅介護のサービスの推進
- 4 : 組織自体の底上げと自主財源の確保

## 法人運営事業

- ① 法人運営の基盤強化経営体制の強化
  - 1) 理事会・評議員会への審議、監事による財産状況などの監査の実施により、適正な法人施設経営を行う。
  - 2) 本部長を長に幹部会議を開催、計画的事業運営を行う
  - 3) 公認会計士の外部指導監査を実施。今年度から仙台の佐々木公認会計士事務所に名取の沼倉会計事務所から変更。適正な財務管理を行う。
- ② 自主財源の確保：市民の皆様から頂いた寄付金は伯和会の基本財産であることから、より多くの企業様や、支持いただける方を募り強力に推進したい。
- ③ 居宅介護事業：利用者の心身の状況環境やその家族の立場にたつて、介護支援専門員が居宅介護サービス計画を提案し、利用者の在宅支援を行いたい。主任介護支援専門員の配置や利用者様から常時連絡できる体制に早く整備できればと思料いたします

## 理事会・評議員会開催日程（予定）

- 1 令和2年度第1回理事会 → 令和2年6月3日（水）
- 2 令和2年度第1回評議員会 → 令和2年6月24日（水）
- 3 令和2年度第2回理事会 → 令和2年11月18日（水）
- 4 令和2年度第3回理事会 → 令和3年3月24日（水）

## 令和2年度購入並びに設備希望

えんじゅ	・チラー新設交換	33,000,000 円
	・ベッド・車いす・歩行器・エアマット・マットレス等	
		総額 7,700,000 円
やまぶき	・ベッド・マットレス・便座等の購入、水道蛇口修理等(各居室)	
		114,400 円/1 人＝総額 5,720,000 円
みずき	・大型洗濯乾燥機	2,200,000 円
デイサービスセンター茶園	・平行棒、昇降台等	1,430,000 円

合計 50,050,000 円

上記より決定事項は、チラー交換の 33,000,000 円（資金は、みづほリースより  
資金調達年利 2%完済後法人所有物） その他必要資金 17,050,000 円

令和2年度 嘱託医・協力病院

令和2年3月1日現在

《嘱託医》

1、内科医

水野内科クリニック

水野圭司 先生 第2・4木曜日 午後

水野友貴 先生 毎週月曜日 午後

毎週火曜日 午後

2、精神科医

仙南サナトリウム

渡辺吉彦 先生 毎月第三金曜日

3、リハビリテーション担当

柔道整復師

黒木雄大 先生 毎週水曜日

《協力病院》

1、刈田総合病院（白石市）

2、歯科医

広瀬歯科医院

廣瀬清憲 先生 随時

## 令和 2 年度 防火、防災計画

法人全体として、施設運営をするにあたり、ご入居いただいている入居者、利用者が、高齢者であり、何かしら心身に不自由な状況がある方が大半を占めるため、避難が困難なことが想定される。このため、定期的な訓練を実施し、ご入居者及び職員に対し防火、防災意識の高揚と地域消防団、地域住民の協力体制を推進し確立していきます。

1. 非常災害対策計画に基づき、個別の防災対策の周知徹底に努めます。
2. 個別の避難方法を確立します。
3. 夜間及び休日の防災体制を確立します。
4. 消防設備器具、危険物施設の定期的な点検に努めます。
5. 災害時の非常食については、常時三日分を備蓄、保管します。
6. 緊急連絡網の確立を図ります。
7. 避難訓練実施計画（予定）

### <避難訓練>

- 1、日時 令和 2 年 5 月中～下旬 午後 （予定）
- 2、目的 施設入居者の大半が障害を持ち、寝たきりや車椅子、杖などを使用しています。これらの特殊性を鑑み、災害に対応する為、えんじゅ併設施設の特別養護老人ホームみずきやケアハウスやまぶき・デイサービスセンター茶園及び白石市総合福祉センターとの共同防災により、通報、避難、誘導を行うことで、防災体制の確立を目的として行います。
- 3、訓練内容 放送訓練・消火訓練・避難誘導訓練・非常持ち出し訓練
- 4、出火時間 午後 4 時（予定）
- 5、出火場所 特別養護老人ホームえんじゅ 地下ボイラー室
- 6、避難場所 えんじゅ正面玄関前
- 7、職員構成 職員勤務中による訓練

### <夜間想定避難訓練>

- 1、日時 令和 2 年 9 月中～下旬 午前 （予定）
- 2、目的 空気の乾燥が増し、火気の取り扱い機会も増える時期となる為、火災への注意を促し、より一層の防災予防の意識を高めることを目的とします。えんじゅ併設施設の特別養護老人ホームみずきやケアハウスやまぶき・デイサービスセンター茶園及び白石市総合福祉センターとの共同防災で実施し、通報、避難、誘導を行うことで、防災体制の確立を図ります。
- 3、訓練内容 放送訓練・消火訓練・避難誘導訓練・非常持ち出し訓練
- 4、出火時間 午後 11 時（想定）
- 5、出火場所 特別養護老人ホームえんじゅ 地下ボイラー室
- 6、避難場所 えんじゅ正面玄関前
- 7、職員構成 職員夜間勤務中（想定）による訓練

令和 2 年 度

特別養護老人ホームえんじゅ

事業計画書

社会福祉法人 伯和会

特別養護老人ホーム えんじゅ

## 令和2年度特別養護老人ホームえんじゅ施設運営方針

### I. 施設サービス向上のために

- 1、法人の信条である「 奉仕 ・ 博愛 ・ 寛容 」を基本とし、えんじゅ理念「笑顔で明るく、元気良く、優しさを持って接します」「心地良い生活と環境を提供します」「自由で楽しい暮らしを目指します」の3つの柱をもとに、ご入居者それぞれのニーズに合った施設サービス計画書（ケアプラン）を作成し、今までの生活習慣や個人の意思を大切にするとともに、自己決定、自己選択や残存能力の活用を図ることで、少しでも自立した質の高い生活が送れるよう支援に努めます。
- 2、介護給付対象サービスとして、入居者に対し、入浴、排泄、食事等の介護、相談等の精神的ケア、社会生活上の便宜、日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上のお世話を提供します。
- 3、社会福祉法人制度改革、費用負担の公平化、介護保険の改定など施設運営が大きく変化している情勢に対応する為、施設運営における課題、問題点の把握、検証と改善に向けた実践に取り組み、安定した運営と魅力ある施設作りに努めます。また、社会に対し社会福祉法人として求められていることを一つずつ実践していくよう努めます。加えて、職員の自己研鑽による一人一人の質の向上と、地域住民として共に暮らすことを視点とした開かれた施設を目標として、安らぎのある地域社会を作り出せるような施設運営を行います。

#### 《特別養護老人ホームえんじゅ 理念》

- ・笑顔で明るく、元気良く、優しさを持って接します。  
(笑顔で優しい声掛けを行います)
- ・心地良い生活と環境を提供します。  
(清潔保持に努めます)
- ・自由で楽しい暮らしを目指します。  
(自己決定を尊重します)

#### 《ワーカー心得》

- ・相手の立場になって物事を考えます。
- ・何故、どうしての問題意識を持ちます。
- ・分からないことはすぐ聞きます。
- ・積極的に行動します。
- ・情報を共有します。



## II. 在宅福祉サービスの向上のために

1. 各関係機関との協力体制を図ります。
2. 施設においてボランティアの育成と拡充を行い、福祉の意識高揚に努めます。
3. 地域に支えられた施設であるとの認識を持ち、専門的な働きかけに努めます。
4. 在宅福祉の充実の為に施設の資源を提供し、地域との交流を積極的に推進します。
5. 短期入居事業を行うと共に各種の福祉サービスの利用法について啓蒙します。

## III. 職員が安心して働けるために

1. 働きやすい職場作りと、勤労意欲の向上を図ります。
2. スポーツ等を通じ、他施設との親睦に努めます。
3. 給与充実の為、介護給付費の処遇改善加算・特定処遇改善加算について「加算Ⅰ」が継続できるよう、体制の整備を行います。
4. 年2回の職員健康診断を実施するとともに、日々、職員の健康管理に努めます。

## IV. 適正な事務の遂行

適正な施設運営を実施するために

1. 各種規定に基づいた事務を実践します。
2. 予算の適正な管理及び執行をします。
3. 業務の効率化を図ります。
4. 職種間の連絡、周知を徹底します。

## V. 施設設備・備品の保全・改修

### 1. 空調設備の修繕

現在、夏場における冷房設備が1台故障しているが、修理部品等の供給が終了していることから修理不可能となっている。残り1台も現在稼働しているが、いつ故障するかわからない状況で、修理も難しい状態である。昨今の高齢者施設における環境不備・対応の遅れなどによる重大事故の発生や責任問題に発展する状況を考慮し、順次修理を進めていく。

### 2. 介護用品の整備

車椅子、歩行器、ベッド、エアマット、マットレス等、日常的に使用する介護用品について、老朽化や経年劣化に伴い、交換や修理が必要な状況が増えていることから、順次入れ替えやリース・レンタル契約により、必要数の

確保に努める。

## VI. 地域との連携交流を行うために

地域との連携、交流の取り組み

1. 地域交流の一環として、白石市福岡公民館まつりへ、生涯学習成果の入居者製作作品の出展を行う。
2. 地域交流の一環として、白石市福祉まつりへ、生涯学習成果の入居者製作作品の出展を行う。
3. 地域交流の一環として、福岡地区敬老会へ、該当入居者の参加を促す。

## VII. 安定的経営基盤の確保のために

1. 安定した収入の確保に努めます。
  - ・事前実態調査を適宜実施することで入退居の期間を少なくし、一定期間内で円滑に入退居が行えるようにします。
  - ・水光熱費、備品等の管理、見直しを適宜行い、経費節減を図ります。
  - ・各種加算の整備を行い、取得できるように努めます。
2. 施設の設備・備品等の更新・改善を行います。
  - ・入居者の重度化に伴い、各種福祉用具等備品の整備を行うと共に、状態に合わせた用具の購入を検討します。
3. 人材の確保に努めます。
  - ・福祉系等への学校へ出向き、ネットワーク構築を行います。
  - ・ハローワークへの情報提供、集団面接会への参加を積極的に行います。
  - ・外国人の労働者受け入れの情報収集と体制整備について検討します。
  - ・キャリアパス制度の構築、研修制度などの整備を行い、知識、技術の習得が行えるようにします。
4. 自然災害等防災対策に対し備えます。
  - ・非常災害時（地震、火災、噴火等）を想定した研修や訓練を計画、実施し、非常時の入居者、職員が安全に行動し避難が行えるように努めます。

## VIII. 人材育成ならびに業務改善に向けた取り組み

1. 業務改善委員会（仮称）が中心となり、株式会社オーリーブと連携しながら、職員誰もが笑顔で気持ちよく働ける環境づくりを進めていきます。
2. 職員が守るべき約束事を行動指針として示す他、業務ごとのチェック表を作成し、やるべきことを明確にすることで、えんじゅ職員としてあるべき姿の標準化をはかります。

## 令和 2 年度施設援助方針

### I. 日常生活介護

施設サービスは、えんじゅ職員が、ご入居者一人ひとりの施設サービス計画に基づいて提供します。ご入居者の意思を尊重し、自立支援を念頭に、個々のニーズに沿った支援に努めます。ご入居者の変化しやすい心身状況や日々変化する日常に併せて、食事、入浴、排せつといった日々のお手伝いを適切に提供できるように努めます。

### II. 日常生活援助

施設での生活の充実を図るため、ご入居者一人ひとりの生活状況に応じた支援を行います。その方にあった生活環境の整備、必要な日用品の準備、金銭管理など日常生活に必要なサービスを提供します。また、生活に必要な各種手続きの代行申請等も対応いたします。

### III. 健康管理

ご入居者が健康で快適な生活を営めるよう、疾病の早期発見・早期対応に努め、生活の自立性を低下させないように支援します。日常の健康管理、定期健康診断、嘱託医による診察を行い、必要に応じて他科受診なども行います。また、夜間緊急時に、看護職員がオンコールにてご入居者の容態の急変に備えます。

### IV. 環境整備

ご入居いただく方々が、施設利用を安心して快適に過ごせるようにするために、ベッド、車いすを始めとする介護用品や各種備品の整備と更新を行います。また、ご入居いただく方の重度化に伴い、身体状況に合わせた特殊用具の準備も行い、多様な方たちの受け入れが行えるよう備えます。

## 令和2年度 えんじゅ短期入所生活介護事業計画

### 短期入所生活介護事業方針

・短期入所の特徴の一つとして、在宅から施設、施設から在宅と環境が常に変化することが上げられ、生活状況が少なからず違う部分があります。利用前の在宅における生活と利用中の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、利用者同士が相互に社会的関係を築き、自立的な日常生活を営めるということを念頭に置いて支援します。また、住み慣れた自宅や生活を共にされてきたご家族らと離れる事により、心理的負担というものがご利用者の皆様には大きいものと考え、一人ひとりと向き合い、そして寄り添い、個々のニーズにあった支援を行う事で安心、安全な生活を提供させていただきます。加えて、近隣の施設、地域の住民の方々とも協力し合い、緊急時も今まで以上に迅速に対応していきたいと思えます。

### 短期入所生活介護援助方針

- ① 短期入所生活介護の基本定員は 10 名で行い、居室も専用の居室を準備します（4 人部屋 2 室、個室 2 室を使用）。その時々のご利用者の方々の身体状況、精神状況などを重要視しながら、安心かつ安全な、在宅と施設の生活が連続性のあるものとなるよう支援します。
- ② 短期入所生活介護（介護予防短期入所生活介護含む）は、在宅での生活が可能な状態の方で、要介護度が要支援 1 から要介護 5 までの方が対象となります。但し、要介護度の利用限度範囲を超えた方については、実費利用と適切な対応により受け入れ対応します。
- ③ 施設サービス提供にあたり、ご利用者の皆様には介護支援専門員を中心とし、ご利用者の皆様の在宅ケアプランに添った施設ケアプランを作成します。食事、入浴、排泄などその方に合った形でのサービス提供に努めます。また、入所時より、バイタルチェックを行うと共に自宅における状況、変化、必要な処置等の有無など確認し、利用者の皆様の健康管理に留意します。
- ④ 日常生活支援については、一人ひとりの利用者の方々に併せた余暇時間を通しての協同作成物の一連の作業～掲示、レクリエーションの実施、季節に応じた行事の開催、手作り昼食会の開催など、個人の持つ潜在能力に働きかける支援内容にて、意味のある個人の存在の理解、役割のある日常を心がけ支援します。
- ⑤ 退所時においては、短期入所生活介護利用中における生活の様子をお伝えし、在宅へ帰宅したからの生活が継続出来る様に支援します。

令和2年度年間研修計画書

No.	研修名	研修時期	研修場所	参加予定者
1	虐待防止と身体拘束排除に関する研修①	4月	内部研修	えんじゅ職員
2	倫理研修・マナー研修①	5月	内部研修	えんじゅ職員
3	リスクマネジメント研修①	6月	内部研修	えんじゅ職員
4	感染対策についての研修①	7月	内部研修	えんじゅ職員
5	虐待防止と身体拘束排除に関する研修②	8月	内部研修	えんじゅ職員
6	医療研修・緊急時の対応について	9月	内部研修	えんじゅ職員
7	認知症ケア研修	10月	内部研修	えんじゅ職員
8	ターミナルケアとメンタルケア研修	11月	内部研修	えんじゅ職員
9	感染対策についての研修②	12月	内部研修	えんじゅ職員
10	リスクマネジメント研修②	1月	内部研修	えんじゅ職員
11	緊急時・災害対策時の対応に関する研修	2月	内部研修	えんじゅ職員
12	マナー研修②、プライバシーポリシー	3月	内部研修	えんじゅ職員

※上記研修、上記以外の研修ともに、  
外部研修案内が届いた際は適宜参加していきます。

# 令和2年度 行事予定 (案)

令和2年4月1日より

2年	行事名	実行日 予定	担当職員	初回全体 打ち合わせ
4月	観桜会	4月中	道山(亜)、山崎、新妻、 大野(由)	2月下旬
5月				
6月	お楽しみ会	6/10(水)	鈴木(智)、安藤、八巻、井上	4月中旬
7月	夏祭り	7/22(水)	大野(香)、鈴木(徳)、武田 加藤	6月上旬
8月				
9月	敬老式典	9/16(水)	阿部、水上、大浦、渡辺	7月上旬
10月	紅葉ドライブ	10/12(月) ~10/16(金)	高橋、小野、八島、鈴木(梨)	8月中旬
11月	芋煮会	11/11(水)	新妻、八巻、村上、山崎	
12月	クリスマス会	12/16(水)	大野(由)、鈴木(智)、 道山(亜)、大野(香)	10月中旬
3年				
1月	新年会	1/13(水)	水上、武田、安藤、井上	11月中旬
2月				
3月				
4月	観桜会	4月中	鈴木(徳)、阿部、高橋、加藤	2月下旬

- ・資料は事前に施設長、会計課長、栄養士、看護課、支援課長、相談員、主任、CMに配布。
- ・全体打ち合わせは、最低実行委員2名が出席できればよい。
- ・全体打ち合わせ日時は、支援課長または相談員、事務所、看護課に確認してから決める。

令和2年度  
デイサービスセンター茶園  
事業計画

社会福祉法人伯和会

デイサービスセンター茶園

## 運営方針

法人の信条である「奉仕」「博愛」「寛容」を基本とし、ご利用者の人権・人間性を尊重して在宅福祉サービスの目的と意義の実践に徹します。「安心・安全」「自立支援」「快適」といった基本に基づきながら、ご利用者の心身の特性を踏まえてその有する能力に応じた自立した生活が営むことが出来るよう支援するとともに、ご家族の介護負担軽減に寄与できる事業所となることを目指します。令和2年4月1日より地域密着型通所介護に移行したことで、より身近な施設といわれるように努めます。

## 重点目標

- ・ 要支援・要介護者の心身の特性・生活環境・残存機能等を踏まえて、その有する能力に応じ自立した生活が営めるように支援する。
- ・ 職員一人一人が自己啓発目標を掲げ、接遇及び介護技術の能力、質の向上を図る。
- ・ 利用者から「どのように見られ、思われているか」を常に意識してケアを行う。
- ・ ご利用者側の視点に立ちできることを増やすことで、生活意欲が持てるよう支援する。
- ・ 地域関係市町村・地域保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り総合的なサービスの提供に努めるとともに、より身近な関係者（民生委員、自治会長等）と定期的な運営推進会議を実施する。

## 事業計画（地域密着型通所介護）

### 1 基本サービス主要実施概要

#### ① サービス提供時間

- ・ 9時30分から16時30分の7時間（令和2年4月1日から）とします。
- 送迎時間が朝夕とも1時間となることから、ピストンでの2便送迎も実施します。

#### ② 利用定員

- ・ 18名までとなります。

#### ③ 相談指導

- ・ 送迎時や電話、連絡帳、茶園便り等を通し、相談や助言を行ないます。



#### ④ 健康管理

- ・毎利用時に、表情などの状態確認、血圧、脈拍、体温の測定、月1回の頻度での体重測定を行い、各利用者の健康状態の把握に努めます。
- ・排泄状況・食事摂取量・水分摂取量・精神状態など観察します。

#### ⑤ 機能訓練(レクリエーション)

- ・介護予防の観点からより効果的に心身機能の維持・向上が図れるよう、各利用者のレベル及び主体性を重視した内容のレクを実施します。
- ・月1回程度の割合で行事を取り入れ、季節感や社会との繋がりを実感できるようにします。
- ・利用者の趣味や特技を生かした活動を積極的に実践していきます。

#### ⑥ 入浴

- ・身体の清潔保持と精神的な満足感が得られるよう、利用者の身体状況に応じた入浴または清拭を行います。また、入浴時の楽しみとして柚子湯や菖蒲湯など季節ごとの変わり湯を実施します。

#### ⑦ 食事

- ・利用者の嗜好並びに状態に応じた食事を提供します。行事の際は、季節に合わせた献立内容を考え、見た目にも楽しめる食事が提供できるようにします。

#### ⑧ 口腔ケア

- ・口腔ケアの重要性について、職員・利用者・家族等に周知徹底します。

### 2、職員の資質向上

- ① 法人内外の会議・研修会等に参加し、福祉・介護に対する知識・技術の向上と、自己覚知からの本質的な資質向上を行います。
- ② 他施設見学の計画等情報収集し、各事業所の長所を参考にしてサービスの見直し・向上を図ります。

### 3、地域との交流活動

- ① 地域と密接した在宅福祉サービスを図るため地域の習慣や風土を理解し地域の拠点としての福祉サービスのネットワーク作りに努めます。
- ② ボランティアの受け入れ、活用を行い、地域と顔の見える関係性を築きます。

### 4、防災対策

- ① 伯和会災害マニュアルの周知を行い、災害時の対応、避難方法等について職員、ご利用者が迅速に対応できるよう避難訓練等を行います。
- ② ご利用者、ご家族との緊急時の安否確認や連絡方法等を作成します。

## 5、年間目標

- ① 地域密着型通所介護の利用定員は1日18名で越えてはならないと決まっています。年間稼働率85%以上（1日平均15.3名）を目標とします。その為の活動として、新規利用者獲得のための市内外の介護支援専門員への働きかけ（空き情報提供や介護支援専門員との関係性作り）を行います。また、他事業所との交流なども通して地域の状況やニーズの把握に努めます。
- ② 地域密着型への移行に伴い、各種加算の見直しを行い、介護報酬が最大限得られるように努めます。
- ③ 登録者以外の臨時利用についても、こちら側からご利用者、ご家族の要望等を聞いて臨時利用の対応を行って、利用者数の確保に努めます。

## 6、設備、備品

- ① 脱衣場での更衣の際にちゃんと手すりとして使用できる箇所がない為、安全に動作が行える物品等の選定と設置場所について検討し備品等の購入を行います。
- ② 歩行器、車いすの利用者が重度化に伴い増加してきていることから、現物品で歩行器が不足している状況となることから購入を行います。
- ③ 新たなレクや質の向上を図るため、高齢者介護をサポートするレクリエーション情報誌レクリエの年間購読の購入を行います。

令和2年度  
特別養護老人ホームみずき  
事業計画書

社会福祉法人 伯和会

特別養護老人ホームみずき

## 施設基本理念

「愛をもって心を込めて安心できる当たり前の暮らしが送れるよう支援します」のもとユニットケアとしてご入居者の個々の状態・生活リズムに合わせたケアを確立し他職種との連携を密に深めることで個別性の高い、手厚いサービスを提供していきます。

## 施設運営方針

### ・安定した施設運営

定員 30 名。介護報酬で人件費が増大する中、入退去時の空床期間の削減、入院者を出さない為の健康管理、加算の取得、経費の削減に努めます。

施設内設備の交換、外部への業務委託にて備品修理費等の削減と職員の業務改善（有償ボランティアの活用）を行います

#### (1)施設整備計画

問題発生が予測される箇所及び水周り等の点検を行い、計画的に整備を実施する。（外回り・エアコン・トイレ修繕等）

※令和 2 年度においては、洗濯機乾燥機の業務用又はガス式への機器交換

#### (2)備品・設備整備計画

(i) 介護機器、レクリエーション等に必要な備品を整備・入れ替え・補充をおこないます。（ベッド、マットレス、エアマット、リクライニング型車いす、歩行器等）

※令和 2 年度においては、マットレス・エアマットの補充

(ii) 消防設備については年 2 回の専門業者による定期点検の実施と、不備箇所が確認された際は早期の修理・更新実施により、安全対策を徹底します。

(iii) 車両の法定定期点検のほか、日常のエンジンオイル交換やタイヤ点検などを励行し、必要があれば適切に修理・交換を実施し、常に安全に運行出来るように備えます。

(iv) 各ユニットの備品を適切に管理し、使用に耐えなくなったものについては速やかに処分し、適切に入れ替え等をおこないます。（ソファ・テレビ・炊飯器等）

(v) 前各項のほか、建物内外のおよび周辺環境の整備、修繕、点検を定期的に行い安全・衛生の確保に努めます。

### ・人材育成と連携を活かした職場づくり

人材確保の為、学校・ハローワークなどへの連携情報提供をおこないます。しかし、現状では確保困難な為、現職員の育成と定着化が必須と考えます。

外部研修への積極的な参加等を通じて、意識改革や向上心のボトムアップを図り、誇りを持てる職場づくりに努めます。

(i) 年 2 回 の健康診断及び生活習慣・病予防健診の実施。

※ 前年度に異常の所見があった職員に対して産業医との面談の実施。

(ii) 看護職員及び介護職員には年 2 回の腰痛診断を実施。

(iii) 管理者、役席者による個人面談を状況毎に随時行い、きめ細やかな意思疎通を図る。

(iv) 年間研修・講習計画に基づいて、県及び県老人福祉施設協議会、県社会福祉協議会等が実施する施設従事者への各種研修・講習会に参加すると共に施設内においても接遇、虐待、介護技術等の研修を実施して職員の資質の向上を図ります。とくに介護技術に関しては、安全で、利用者・職員双方の負担の少ないケアの実現を目指します。

(別添 研修・講習計画書 (案) 参照)

(v) ユニットリーダー、介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護実践リーダー、胃瘻と喀痰吸引等の事業運営に必須の有資格者の確保に努める。

※令和 2 年度においては、介護福祉士取得の為の実践者研修へ 1 名

ユニットリーダー研修へ 1 名 予定

#### ・地域交流の活性化

ボランティアの受入、民生委員等施設開放日、家族交流日の設置

### 事業内容

・日常生活介護 日常生活支援 健康管理

入居者サービス

#### ①健康管理

(i) 嘱託医、看護師による健康管理を行う。

(ii) 歯科医師による歯科診療、歯科衛生士による口腔ケアを行う。

(iii) インフルエンザ予防接種、年 1 回の健康診断 (7 月予定) を行う。

#### ②栄養管理

(i) 利用者個々の状態・体調を考慮し、必要な場合は配置医師による療養食等も含め栄養士による適切な献立作成はもとより、調理方法、味付け、盛り付けにも配慮し、栄養のバランスが取れた食事提供を行う。

(ii) 地産地消に配慮し、季節感のある献立を取り入れます。

(iii) 嗜好調査を実施し、その評価を分析により入居者が食べたい食事を提供する。

(iv) 嚥下食についても内容の充実など食欲増進と安全面の両立を図る。

(v) 異物等の混入の防止、感染症等に伴い適切な加熱、常に清潔で衛生的な厨房環境の整備に心がけ、安心安全な食事を提供する。

#### ③機能訓練

兼務の機能訓練指導員 (看護職員) と整復師による個人の状態に適した機能回復訓練をおこない身体機能の維持、回復を図ります。

#### ④安全管理

(i) 年 2 回以上(うち 1 回は夜間想定)の避難訓練の実施のほか、消防署・地元消防団とも

密に連携を図り緊急時の対応を万全とする。また、火災・地震・風水害・土砂災害等を想定した避難訓練及び連絡網等の非常時に備えた体制を確立します。

(ii) 防災備品、非常食を適正に管理し、消費期限の到来するものは定期的に更新する。

⑤行事、地域交流等

(i) お花見や買い物を含むドライブ等屋外活動をおこないません。

(ii) 誕生会、クリスマス会、節分など各ユニットにおいて行事をおこないません。時には複数ユニットで共同実施し、ユニット間の親睦を深めるよう努めます。

(iii) 地元ボランティア・保育園児の訪問・地域交流活動を継続します。

(iv) 家族交流会等の実施によりご入居様との交流を図ります。

(v) 外部理容師による施設内散髪を定期的におこないません。

特別養護老人ホームみずき 令和2年度年間行事計画

目的：入居者様同士の交流の場を設けることで、身近に友人を感じていただくとともに  
離れて暮らすご家族様と行事を通して交流施を持ち、  
施設生活の中で、楽しみや生きがいを見つけ出していただけることを目的とします。

4月	花見	ユニットごとに施設内外の桜の花見を楽しんでいただきます。	4月～11月 ○音楽セラピー 第1・3水曜日  ○民謡教室 第2水曜日  ○園内販売 毎週金曜日  ○傾聴ボランティア 第1金曜日
5月～7月	フリー月間	ユニットごとに入居者様の要望をお聞きし、計画を立てます。	
8月	七夕	ユニットごとに仙台七夕に合わせて入居者様一人ひとりに短冊へ願いを書いていただき竹へ飾ります。	
9月	敬老の日	全体行事として、人生の先輩である入居者様へ対し感謝の気持ちを込めて計画を立てます。ご家族招待。	
10月	芋煮会	全体行事として、旬の食材を使用することで、季節感を感じていただけるように計画を立てます。	
11月	フリー月間	ユニットごとに入居者様の要望をお聞きし、計画を立てます。	
12月	クリスマス会	全体行事として、お食事を楽しみながら、1年の振り返りをしていただけるように計画を立てます。	12月～3月 ○音楽セラピー 第1・3水曜日  ○民謡教室 第2水曜日  ○園内販売 毎週金曜日
1月	書初め	ユニットごとに新年の抱負を書いて飾ります。	
2月	豆まき	ユニットごとに厄払いを込めて豆まきをします。	
3月	ひなまつり	ユニットごとに雛祭りの飾りつけを楽しんでいただきます。	

※その他、ユニットごとに入居者様の要望などを取り入れながら、自宅への外出、市内への買い物や散歩などの外出を行います。

※地域交流として、入居者様の希望を踏まえて市内で行われている催し物や行事への参加を行います。

※4月から11月の予定で定期的に各団体に慰問してもらいます。

令和2年度年間研修計画書

No.	研修名	研修内容	研修時期	研修場所	参加予定者
1	社会福祉施設中堅・監督職員研修	講義・実習	未定	外部研修	ユニットリーダー
2	災害時要支援者への取組み研修	講義・実習	未定	外部研修	施設長
3	管理者研修	講義・実習	未定	外部研修	施設長
4	施設運営研修	講義・実習	未定	外部研修	施設長
5	高齢者に生じやすい症状とケアのポイント	講義・実習	未定	外部研修	ケアワーカー
6	認知症研修	講義・実習	未定	外部研修	ケアワーカー
7	ユニットケア研修	講義・実習	未定	外部研修	ケアワーカー
8	高齢者の口腔ケア研修	講義・実習	未定	外部研修	ケアワーカー
9	高齢者の急変時の対応研修	講義・実習	未定	外部研修	看護師
10	看取りケア研修	講義・実習	未定	外部研修	看護師
11	給食施設栄養管理担当者研修会	講義・実習	未定	外部研修	管理栄養士
12	排泄ケア研修	講義・実習	未定	外部研修	排泄委員会担当ケアワーカー
13	褥瘡対策研修会	講義・実習	未定	外部研修	褥瘡予防対策チーム担当ケアワーカー
14	リスクマネジメント研修	講義・実習	未定	外部研修	安全対策委員会担当ケアワーカー
15	感染症対策研修会	講義・実習	未定	外部研修	感染症予防対策委員会担当ケアワーカー



令和2年年度 各種委員会・会議開催計画

◎安全対策委員会・給食委員会・排泄委員会については、各ユニットから、それぞれ一人選出し担当します。

月	委員会		会議	
	定期的開催	必要に応じて開催	毎月開催	3か月毎（法人全体）
4	排泄委員会 食事援助委員会 安全対策委員会	入居検討委員会	運営会議 ユニット会議 全体会議	感染予防対策委員会 事故防止委員会 伯和会全体会議
5	食事援助委員会 給食委員会 排泄委員会			
6	食事援助委員会 給食委員会 排泄委員会			褥瘡予防委員会 身体拘束防止委員会
7	排泄委員会 給食委員会 安全対策委員会			感染予防対策委員会 事故防止委員会 伯和会全体会議
8	給食委員会 安全対策委員会 排泄委員会			
9	食事援助委員会 安全対策委員会 排泄委員会			褥瘡予防委員会 身体拘束防止委員会
10	排泄委員会 給食委員会 安全対策委員会			感染予防対策委員会 事故防止委員会 伯和会全体会議
11	食事援助委員会 安全対策委員会 排泄委員会			
12	給食委員会 安全対策委員会 排泄委員会			褥瘡予防委員会 身体拘束防止委員会
1	食事援助委員会 排泄委員会 安全対策委員会			感染予防対策委員会 事故防止委員会 伯和会全体会議
2	給食委員会 安全対策委員会 排泄委員会			
3	給食委員会 安全対策委員会 排泄委員会			褥瘡予防委員会 身体拘束防止委員会

令和 2 年 度

軽費老人ホーム ケアハウスやまぶき

事 業 計 画 書

令和2年度 事業計画書(案)  
軽費老人ホーム ケアハウスやまぶき

基本理念

1 目的

軽費老人ホーム(ケアハウス)は60歳以上(但し、60歳以上の配偶者と共に利用する者についてはその限りではない)で所得を問わず、自炊生活が出来ない程度の身体状況且つ、家庭環境や住宅事情などの理由により在宅にて生活が困難な高齢者を入居させ、食・住などの日常生活に必要なサービスを提供し、生きがいを持って健康で明るい生活を送れるよう支援していくことを目的とする。

※建築物20年経過し耐用年数をオーバーした、ケアハウスやまぶきです。備品を提供した各メーカーより20年経過し、急遽下記については、各々危険を指摘されており、平成31年度より、修繕に着手してまいりたい思慮します。

(1) ケアハウスやまぶき屋根修理 (約2,000万円)

割れの為、雨漏りが発生する為、補修工事の実施が必要と思慮します。

(2) 各居室のトイレ・給湯器・IH修理 (計60万円×48室)

※必要に応じ修理必要なところから実施したいと思慮します。

①トイレは便座の保温により、茶色のシリコンのような液体が床や便器内に漏れる場合は交換が必要と思慮します。

②給湯器の水漏れ等ある場合等。

③IHは炊事で本体内部への煮こぼれ等で漏電ブレーカーが下がった場合等交換が必要です。つきましては、交換の時期がきていると思慮します。

2 処遇

ケアハウスにおける処遇(サービス)は、以下のように分けられる。

- 1) 相談・助言
- 2) 食事の提供
- 3) 入浴の準備
- 4) 緊急時の対応
- 5) 夜間管理体制
- 6) 在宅介護サービス等の利用支援
- 7) 保健衛生
- 8) 利用者の活動支援
- 9) その他

ケアハウスでは、利用者自身の自主的生活が基本となるため、施設生活を継続していく上で、特に各種相談・助言による社会的自立支援が重要となる。そのため、相談時等の主訴だけではなく、日常的な状況の観察を含め、日頃より利用者個々の状況把握に努めるものとする。また、利用者間のコミュニケーション調整や利用者が自らの意志に基づき、自立した質の高い生活が送れるように適切な支援が行われる体制を整えて、より良いサービスの提供を目指す。併せて、サービスの質の向上を目指す観点から職員の資質の向上にも努める。

## 基本方針

### 1 方針

- 1) 高齢者の居住環境を整え、快適な生活の実現
- 2) 身体状況の虚弱化等に対応し、在宅介護サービス等の活用
- 3) 利用契約システムの合理化
- 4) より良いサービスの高揚

### 2 支援

- ① 日常生活の自立と支援
  - i 利用者自身の責任で生活することを基本に自主性を尊重しながら、各種相談等による支援を進める。
  - ii 利用者の生活が健康で明るいものになるように、必要に応じて助言を行う。また、利用者が自主的に趣味・教養娯楽・交流行事を行う際に必要に応じ支援を行う。
  - iii 施設内外を問わず、利用者の活動の場を広めるように、社会資源を活用しながら地域での新しい生活(生きがい)を模索する支援をする。
- ② 健康的な生活の推進
  - i 利用者個々の疾病等を把握し、適切な健康管理に関する助言を行う。
  - ii 住民健康診断を積極的に活用し、利用者の疾病の早期発見に努め、健康管理に配慮する。
  - iii 突発的な伝染性病原菌等の予防のための対処について、状況に合わせ実施する。
- ③ 楽しみのある食生活の実現
  - i 委託業者による施設の環境に合わせた食事システムにより、美味しい食事の提供に努める。
  - ii 利用者の嗜好等を取り入れながら、管理栄養士の栄養管理に基づいて喜ばれる食事の提供に努める。

iii 四季折々に合わせた時節を感じられる飽きのこない、楽しみのある食事の提供に努める。

④ 職員の資質の向上

- i 施設内外を問わず、積極的に研修に参加させ、福祉情勢の理解と専門的な知識、技術を修得し、より良い援助技術の均一化を図る。
- ii 他施設等との交流を図り、情報交換を行うことで、職員の意識改革に努める。

⑤ 防火・防災対策

- i 定期的な防災訓練を実施し、利用者の人命を尊重し安全対策を重視しながら実施することにより、利用者一人一人の防災意識の高揚に努める。
- ii 併設施設との連携をとることにより、常時の防災体制の確立を図る。
- iii 消防設備器具や危険物設備等の定期的な点検を実施する。
- iv 災害時の非常食として、併設施設との共同備蓄により、常時三日分を備蓄保管する。

⑥ 在宅介護サービス等の活用

- i 2019年度伯和会の運営する在宅介護支援センター茶園は、一旦休止することにしたことから、サービス低下は避けられないと思われませんが、利用者一人一人に対し、密接な個別対応により、迅速な対処を行うよう努めたいと思います。

⑦ 施設の社会化

- i 地域にある保健・医療・福祉機関と連携し、個々のニーズにあったサービス提供が出来る体制を整える。
- ii 地域との交流を積極的に推進し、地域住民の施設への理解を深めてもらう。また、開かれた施設を目指すことにより、地域に合った福祉を模索しながら望まれる施設の実現に努める。

《重点目標事項として》

<施設の課題や対応について>

昨年度も経年変化などによる自然なADL低下や、また、自然なADL低下が理由とは違う病態急変等で、お亡くなりになられたり、ケアハウスでの生活が困難となって退居となるケースも見られたが、昨年度も、満室に近い入居率となっている。入居希望者確保の為、待機状況により仙南地区の包括や市内の事業所に入居希望者の紹介依頼を行っていきたい。

また、地域に貢献する意味において入居対象の是非に関わらず様々な問題を抱えて相談に来られた方々に対しては引き続き丁寧な対応と必要な情報提供を行って広義の相談窓口としての一端も担い、延いては入居希望者確保に繋げていきたい。

生活支援においては入居者が安心して心穏やかに生活出来るよう、身体面や精神面の不安材料を取り除けるよう相談サービスの充実を図っていききたい。また、入居者自身のスタイルで長く生活しやすい施設を目指し、社会的自立支援を常に心掛け様々な支援に今後ともあたっていききたい。

一方で、誰しも心身のレベル低下は避けられない状況がある。ケアハウス内でのサービスの枠を超えてしまった場合は居宅介護サービスなどがスムーズに活用(或いは、状態によって介護保険施設等への移行含む)出来るよう支援を行い、今まで以上に地域の医療・保険・福祉の各関係機関等と連携強化を図っていききたい。さらに、入居者一人ひとりに、介護予防に対する意識を高めてもらう啓蒙活動や入居者自身が自分の生活設計に参画してもらええる環境作りを積極的に実践する努力も必要と考える。

## <サービスの向上について>

### 1. 建物・設備等の維持管理について

例年、不具合箇所の発生には迅速に修理などの対応を実施している。しかし、築 20 年目ともなり他にも経年劣化が多く見られる状態となっている。特に居室部・共用部を問わず機械設備などの故障や劣化がみられる状況も発生。修理部品の調達に既に困難な物も多くなっている。また、建物自体にも各フロアの壁・床などに腐食など劣化が激しい未補修箇所が引き続き存在している。

厳しい予算状況ではあるが、優先順位をつけ費用対効果などを鑑みながら建物および設備等の維持管理も継続して推進していききたい。

### 2. 職員の質の向上について

昨今、経年変化によるレベル低下以外にも急変による心身の状態が変化し、ケアハウス→グループホーム→老健→サービス付き高齢者向け住宅等と共有しできるところと、情報を交換することも今後必要かと思う。突発的に諸対応が必要となるケースも多く発生している。また、一部の入居者が些細な事で、トラブル等を起こすケースもみられる状況も引き続き存在している。

日常的な相談や支援内容も複雑・多岐に渡るものが多い状況である。こうしたことから、引き続き職員個々の専門性が高く求められている。その為、個々の立場から利用者の状況を把握し連携してサービスの向上に当たり、専門性のみならず根底にある人間同士の関わりへの深い理解やコミュニケーションスキルを身につけることも重要と考える。そのため、対人援助技術は勿論のこと「人として」の接遇やマナーなども含めた質の向上にも努めていきたい。

また、現在、看護師の居ない状況であります。法律上の配置基準はないものの看護師有資格の職員による医療的視点から日常に支援が必要と思われる入居者の状況は今後も続くと思われる。それだけに、近隣の各病院に積極的に訪問し、常時連携を図る努力をしたいと思えます。健康管理面の状態把握や助言、緊急時の対応など医療的側面からの支援の必要性は増加しているため、看護師有資格で運転免許証保持者の常勤の看護師の補充は必要な重要事項と考える。最終的ドクターが連携の中心にすることが必要である事から、勉強会参加に参加する機会も必要と思われまます。

※また、上記以外にも施設の運営やサービスの向上を考える上で以下の事柄等についても積極的にとりこんでいきたい。

- ◎特別食(時節の食事等)のより一層の充実と通常食の質の向上を図る。
- ◎他施設との交流を図り、入居者確保の状況や生活支援および諸問題への対処法等について意見交換を行い、その取り組みの実情を把握する。

～結び～

以上を目標にこれからも地域社会から望まれる施設を目指し職員各々が研鑽に励み、より質の高いサービスを実践していきたい。

現在は、民間の比較的安価な有料老人ホームなども存在し、サービスの多様化がみられる中でケアハウスがどのような方向に進むべきか等、しっかりとした現実認識を持ちながらもシミュレートして今後の施設の在り方を描くことも重要と考える。

令和2年度  
居宅介護支援センター茶園

事業計画書

社会福祉法人伯和会

居宅介護支援センター茶園



## 居宅介護支援センター茶園

居宅介護支援(ケアマネジメント)とは、介護を必要としている人が適切な生活支援を受けられるよう、各種介護サービスに関する手続きを代行してくれるサービスです。

要介護1~5の認定を受けている人がサービスの対象で、利用者は介護支援についての知識が豊富な介護支援専門員(ケアマネジャー)に相談し、本人の希望や環境に合わせたケアプランを決定していきます。

これから介護生活を始めようという人のために、居宅介護支援で受けられるサービスの内容や利用方法についてご紹介する。

### 居宅介護支援

居宅介護支援がどのようなものかを知るために、その目的や受けられるサービス内容、料金体系について。

#### ●サービスの目的

被介護者の身体的・精神的な状況に合った適切なサポートを行い、自立した生活を送れるように支援することを目的とします。

目標：昨年度在介茶園を閉鎖したこともおあり今年度0からのスタートということで6月に高子主任介護専門員の資格がいったん期限切れとなることにより半年は(更新研修を受験するまで)、実質営業自体ができない状況になっているため、半年は経費のみの支払いとなりますが、12月末に目標の25件をめざし邁進したく考えます。

#### ●サービス内容

担当のケアマネジャーが、被介護者からの相談や要望に応じてケアプランを作成し、それに沿って適切な介護サービスの提供者・事業者との調整を行います。

ケアプランとは、要介護認定を受けた人が介護サービスを利用するときに必要な大切な書類を言う。被介護者本人が自立した生活をする上での希望や要望、「〇〇を一人で行えるようになる」などの目標を設定し、達成に向けて利用すべき介護サービスの内容などを記載した、「介護サービスの利用計画書」のことを指し、介護者本人や家族が作成することもできますが、介護に関する専門的な知識が必要なので、無料で作成を代行してく

れるケアマネジャーに依頼をする場合がほとんどです。

ケアマネジャーは、ケアプランの作成後も月に1回以上は利用者の元へ足を運び、生活状況や目標の達成度に応じて、必要であればプランの見直しを行うなど、細かなマネジメントをする。また、要介護認定の更新や変更届の市区町村への提出など、各種手続きの代行サービスも行ってくれるため、「症状が改善・悪化したので要介護認定の内容を変更したい」「書類の作成方法がわからない」といった場合も頼れる存在になります。

●対象者と利用料

居宅介護支援サービスを受けるには、要介護1以上の認定を受けていることが条件。

ケアプランの作成やケアマネジメントサービスはすべて介護保険が適用されるため、自己負担はありません。利用対象者 この事業の対象者は、白石市に住所を有する概ね65歳以上の要援護高齢者及び要援護となるおそれのある高齢者、又はこれらの方を抱える家族及び親族とする。

令和2年度 居宅介護支援センター茶園

月次業務

	業務 内容		業務 内容
4月		10月	白石市地域ケア会議 自分らしい生き方暮らし方を考える シンポジウム 認知症理解のための講座
5月	白石市介護支援専門員連絡会議	11月	白石市介護支援専門員連絡会議
6月		12月	白石市地域ケア会議 看取り方看取られ方についての講習会 介護支援専門員実務研修実習指導者研修
7月	介護支援専門員実務研修実習指導者研修	1月	白石市介護支援専門員連絡会議 白石市在宅介護支援センター連絡会
8月	白石市地域ケア会議 白石市在宅介護支援センター連絡会 宮城県認知症キャラバンメイト養成講座	2月	白石市在宅介護支援センター連絡会
	白石市介護支援専門員連絡会議	3月	白石市介護支援専門員連絡会議 居宅介護支援集団指導